

事案名	洲本市の事案（兵庫県28-2）
分類	廃棄・遺棄 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・証言〔1〕 ・『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について（回答）平成15年10月6日〔2〕
資料内容概要	<p>終戦時、兵庫県洲本市内の由良要塞に毒ガス弾等が保有されており、進駐軍が処理することになったとの話を同僚から聞いたことがあるとの証言がある。</p> <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元進駐軍通訳の証言によれば、「昭和21年9月～11月頃に、進駐軍の毒ガス処理班の通訳をしていた同僚から、洲本由良砲台の反対側の山の横穴に旧軍の毒ガス（ホスゲン、イペリット等）があるが、危険なので穴をブルドーザーで埋めることになったという話を、当時の同僚から聞いた」と記載されている〔1〕。 ・証言内容を確認するため、旧軍施設に係る地元住民等に事情を聴取したところ、由良要塞は昭和20年9月頃に米軍が進駐し、進駐軍の命令により、地元住民が多数動員され、同要塞に保管されていた弾薬類の搬出や建物の解体等が実施されたが毒ガス弾等はなかった。その後、旧軍の各施設は徹底的に爆破処理された。同作業は昭和20年末頃まで行われたようだと記載されている〔2〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・由良要塞跡は、現在、住宅、公的施設、宿泊施設、公園、山林等になっている。由良地区の地下水調査結果では、ヒ素濃度は環境基準以下である〔2〕。